

分科会 6

摂食障害からの回復 ～リカバリーをめざして～

小林清香（東京女子医科大学）

鈴木高男、佐藤一郎、恒川美智子、三好昌子、畑部博美（ポコ・ア・ポコ）

遠藤光子（名古屋ポコ・ア・ポコ）

摂食障害の当事者

参加者45名 家族が大部分で当事者は4～5名 支援者が若干いました。

はじめに「摂食障害の現況」「家族が対応に混乱していることについて」を説明し、摂食障害の分科会を企画した主旨を話しました

★摂食障害の当事者2名に、家族が家族会に参加してどう感じているのかをインタビュー形式で行いました。家族にどのような変化があったのか、変化を自分の中でどのように感じたのか、捉え方の変化や自分がどのような行動ができたのか等の話をしてもらいました。

★摂食障害ピア活動の実際：ポコ・ア・ポコの取り組みについて説明

現在行っているポコ・ア・ポコの活動風景（家族会・講師を招いての講演会・回復した家族、当事者からの話等）について写真を取り入れながら説明しました。その他に家族対象にテキストを使用して家族相談会の実践。低年齢化にともない、養護教諭、保護者に対してテキストを使用し、早期発見早期治療の重要性を広げていく活動。

★専門家からみた「心理教育の必要性」をパワーポイントを使用し説明（小林清香）

★ワーク 家族会の実践 ポコ・ア・ポコから6人 会場から家族4人

*ウォーミングアップ ～ 自己紹介と靴下の干し方 ～ 情報提供：卵の話・良い子の話 ～

参加者から現在の心配・困っていることについて～ 全員でワーク（受け入れ、共感、自分の体験・工夫と知恵、方向性）～ 会場からの質疑応答

*家族の関わり方の質問が多く寄せられ、関心の高さを感じました。

《鈴木高男（ポコ・ア・ポコ）》